

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	3
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	6

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

「桜のある水辺風景 2017」たくさんのご応募ありがとうございました！

JRRN では、水辺が創出する美しい景観の未来への継承を目的として、『桜のある水辺風景 2017』の募集を3月より行ってまいりました。おかげさまで、131名の皆様から、297枚もの素晴らしい作品のご応募を頂きました。本当にありがとうございました。

作品集につきましては、当初5月末の公開を予定しておりましたが、予想を超える数の作品のご応募をいただき、編集作業が追いついていないため、やむなく延期させていただきます。楽しみにしていただいていた皆様、誠に申し訳ありません。できるだけ早く公開できるよう、鋭意作業を進めておりますので、今しばらくお待ち下さい。

なお、作品集は下記ホームページで公開する予定です。また、これまでの応募作品については Facebook でも公開していますので、あわせてご覧ください。

◆公開先ホームページ URL :

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/category/cherryphotos>

(※過去7回の写真集も公開しております。)

◆Facebook ページ URL :

<https://www.facebook.com/sakuramizube/>

来年も本企画を予定しておりますので、是非ご参加ください。また、本企画について、感想やお気づきの点があれば事務局までメール等でご連絡をお願いします。今後の参考とさせていただきます。

最後に、ご応募いただいた作品の中からいくつかご紹介させていただきます。



撮影：Hidemi Kuwahara 2017年5月@福島県



撮影：花一彦 2017年4月@愛知県



撮影：伊達兼敏 2017年4月@大阪府

(JRRN 事務局・阿部充)

小さな自然再生普及プロジェクト-平成28年度の取組み総括と今年度の活動予定

JRRN では、多様な主体が協働し日曜大工的に自然環境の保全・再生に取り組む「小さな自然再生」の技術と英知を高め、当分野に取り組む人材の育成を図ること、各地域に相応しい新たな取組を活性化させることを目的とした普及促進活動を継続的に実施しています。

平成28年度の主な取り組みとしては、「小さな自然再生」現地研修会を、福岡県福津市の上西郷川、兵庫県宝塚市・西宮市の武庫川、千葉県白井市の神崎川の3箇所で開催し、これらの成果を学会やホームページを通じて情報発信しました。現地研修会の成果は、参加者による現地施工や市民団体の活動など、地元での新たな取組にフィードバックされています。また、現地研修会や学会発表を通じて、参加者から新たな現場での研修会開催要望を頂くなど、当分野の活動のネットワークが着実に広がりつつあります。

「小さな自然再生」研究会メンバー、現地研修会の受け入れ先の皆様をはじめ、本活動へのご支援・ご協力をいただきました皆様、ありがとうございました。

平成28年度の取組み概要

月	取組み概要
7月	第3回「小さな自然再生」現地研修会（福岡県福津市・上西郷川）開催
9月	応用生態工学会 第20回大会（東京大会）・自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う V」開催、ポスター発表「水辺の小さな自然再生を通じた川づくりのめぐり PDCA ～ コラボで取り組む段階的な人材育成プログラム（試案）～」
10月	第4回「小さな自然再生」現地研修会（兵庫県宝塚市及び西宮市・武庫川）開催
12月	第5回「小さな自然再生」現地研修会（千葉県白井市・神崎川）開催
1月	第3回「小さな自然再生」現地研修会開催報告公開 http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/172
2月	平成27年度河川整備基金助成事業「水辺の小さな自然再生の推進に向けた現地研修会と事例情報の普及促進」事業が「平成28年度 優秀成果表彰」受賞 自然環境復元学会 第17回全国大会講演「水辺の小さな自然再生の普及促進に向けて」 第4回「小さな自然再生」現地研修会開催報告公開 http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/177
3月	「水辺の小さな自然再生」紹介リーフレット発行 http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/181 自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う V」講演録公開 http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/187 第5回「小さな自然再生」現地研修会開催報告公開 http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/194

今年度も引き続き、(公財)河川財団の河川基金の助成をいただくことができ、「小さな自然再生」の普及促進、人材育成を目的とした、次の取組を企画しています。

1. 「小さな自然再生」現地研修会の開催
 - 回数： 3回
 - 内容： 座学+ワークショップ（河川管理者と連携し、本分野有識者による基礎講習、現場視察、及び室内演習 or 現場実技を想定）
 - 開催地： 小さな自然再生を既に実施している現場 or これから取り組む予定の現場
 - 研修参加者： 行政職員、民間技術者、研究者、学生、市民団体等
2. 「小さな自然再生」普及啓発動画の制作
小さな自然再生の考え方や具体事例等を紹介する動画を制作します。
3. 「小さな自然再生」ホームページを通じた現地研修成果の全国普及
「小さな自然再生ホームページ」を活用し、現地研修会等で得られた知見を整理し、他地域での活用を視野に全国に普及します。

今年度の活動の実施に向け、JRRN 事務局では、「小さな自然再生」研究会メンバーとともに研修実施先やプログラムなどについて企画調整を進めています。活動の概要が決まり次第、本ニュースレターや JRRN/「小さな自然再生」ホームページ等を通じて皆様にご案内させていただきますので、引き続きご支援とご協力をよろしくお願い致します。



第3回現地研修会



第5回現地研修会



「水辺の小さな自然再生」紹介リーフレット

(JRRN 事務局・後藤勝洋)

6月



多摩川アユの産卵時期と産卵場所（天然アユの生態）より引用

<http://tamaawa.circlemv.com/seitai-02.html>

あの日のあの川 リレー日記 ～第29話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第29話主人公 堤陽星

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 3年次 白川(直) 研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：神奈川県多摩川)

「辛い行事」

いつのこと？： 幼少期～高校卒業

どこの川？： 多摩川

5月号を執筆した前田さんよりバトンが回ってきたので、私の地元である川崎市と東京都の間を流れている多摩川での思い出を執筆する。

私が通っていた神奈川県立多摩高等学校には多摩川の河川敷で行う行事が二つある。一つ目はマラソン大会だ。マラソン大会は1, 2年生が男女別で行う行事で、男子は8 km、女子は5 km走った。この行事の悪いところはマラソン大会の練習ということで一定期間体育の時間が持久走に充てられることだ。サッカーやソフトボールなどが出来る楽しい時間になぜ走らなくてはならないのかという気持ちでいっぱいであったが、この期間は体育で走っているからという理由で、部活での走り込みのメニューが減っていたのでいいこともあった。ただ、体育で手を抜くと連帯責任で罰走になるので結局走らされた。

私が所属しているハンドボール部では50位以内には入れないとペナルティを受ける決まりがあり、体力が他の部員より劣っている私にとって50位はとても高い目標であった。体力がないなりにペナルティを恐れて一生懸命走った思い出は今でも忘れられない。普段部活で走りなれている河川敷であったが、マラソン大会の光景は部活のそれとは全く違うものだった。まず、開始時に前の方の集団に入れないと、序盤だけスピードを出す人たちに巻き込まれてしまいペースが遅くなってしまふ。さらに、狭い道を走るためアスファルトで舗装されている地面を上手いことキープして走ることが出来なければ小石でゴツゴツして走りづらく、足に疲労がたまってしまふことになる。このように色々なことを考え、作戦を練って臨んだマラソン大会であったが、結局70位ぐらいにしか入れず、50位には入れずに悔しい思いをした。ペナルティを受けたことは言うまでもない。

マラソン大会や部活での走り込みの記憶だけを思い出すと多摩川は私にとって恐怖の対象でしかない。しかし、多摩高校が誇るもう一つの行事である大師強歩はあまり嫌いではなかった。この行事は多摩高校が立地している宿河原から川崎大師まで、距離にして22 kmほど歩くというものだ。1~3年生の男女が全員参加するので900名ほどの生徒が川崎大師に向かって歩くわけだ。学生服を着た高校生やロードバイクですごいスピードを出している人、上半身裸でランニングしているおじさん等、普段は多様な人々で賑わっている多摩川の河川敷を占拠して歩く多摩高生は近隣住民の方からしたらさぞ迷惑であったことであろう。

マラソン大会と同じくこの行事は生徒に非常に受けが悪い。歩く距離はもう少し短くていいのではないかと、近隣住民から苦情がくるならば今年度から廃止にした方が良くといった声はちらほら聞こえてくる。また、3年生からしたら受験の大事な時期になぜ勉強をせずにこのような行事を行うのか理解不能である。このように不平不満を漏らす生徒も、この行事は体育の大事なカリキュラムであるためさぼったら進級・卒業できなくなるという本当かどうか分からない噂のために、みんな参加していた。

授業が無くなるからという不真面目な理由だけで私はこの行事が好きだったわけではない。まず、実家から近い距離の多摩川は見たことも遊んだこともあったが、10 km以上離れた多摩川を見るのは初めてであり、一種の冒険心のようなものがくすぐられたからである。また、川崎大師に着いたら自由解散になるため、普段は自転車通学であったため学校に近いところで遊んでいたのだが、川崎駅付近で遊べたため少し特別な気がした。だが、一番私がこの行事が好きであった要因は、ただ多摩川を友達と話しながらか歩くのがとても楽しかったからであろう。1~3年生の3回とも私は部活の同期と共に歩いたのだが、3年生の時は大師強歩のおかげで、部活を引退して関わりが薄くなっていたメンバーと久々に会話できた。歩いていた時はもちろん辛かったのだが、あの時間は今思い返すと2年以上決して楽ではない練習を共に乗り越えてきた友達と何かを成し遂げた高校時代での最後の出来事であったのではないかと思う。

上述のように生徒からはあまり人気のないマラソン大会と大師強歩であったが、高校を卒業して3年以上たってから振り返ってみて、私はこれらの行事をさぼらずに参加して良かったと感じている。やはりこのような行事は机の上で学ぶこととは全く異なったものを学べるいい機会であると思う。私の例であれば、マラソン大会では厳しい目標に対して諦めずに色々な策を講じる力が身につく、大師強歩では大切な友達の存在を再確認できた。在校生も辛いであろうが逃げ出さずに頑張ってみてほしい。

ここまで延々と高校での行事について執筆してきたが、私は今不思議な縁を感じている。高校生の時まで、というよりはつい最近まで大して興味を持っていなかった多摩川について白川研究室に入って執筆したことで、今まで多くのものを多摩川で学んできたのだなと感じた。研究室で学術的な物を学ぶのと同時に、実家に帰ったときにはまた友達と走り回ったり、バーベキューをしたりして学術的な物とは異なったものを学びたい。言い換えると友達と川遊びをしたい。

(次は饒平名青空さんにバトンを託します)

水辺からのメッセージ No.97

岡村幸二 (JRRN 会員)

自分達でまちをきれいに：
水車がコトコト廻り出せば 地域の声も聞こえてくる



撮影：2017年4月（滋賀県長浜市・高月町雨森地区）

◆「ふるさと滋賀の風景を守り育てる条例」（滋賀県）の第1号

この地は以前から、国宝十一面観音で有名な渡岸寺など、「観音めぐり」が盛んです。30年程前に雨森自治会では「自分達の地域は自ら美しく」とアイデアを持ち寄り、用水路を花で飾るなどしてきました。休みの日には当番となる水路を親子で楽しそうに清掃する光景に出会います。

◆雨森の風景に似合う水車

湖北地区では「水力発電水車をぜひ雨森に」と長年小水力発電に取り組み、2012年3月には自然エネルギーの象徴でもある水車を完成させました。（発電用水車の最大出力：約26万kWh（4か所合計））

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

会議・イベント案内 (2017年6月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■ 河川法改正20年インスパイアプログラム

「水辺の時代を開く」

- 日時：2017年6月4日(日) 15:00-17:30
- 主催：国土交通省水管理・国土保全局河川環境課
- 場所：東京サンケイビル サンケイプラザ 4Fホール
(東京都千代田区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2602.html>

■ 2017年度河川技術シンポジウム

- 日時：2017年6月15日(木)～16日(金)
- 主催：土木学会水工委員会河川部会
- 場所：東京大学農学部 弥生講堂 (東京都文京区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2521.html>

■ 第12回 隅田川クリーン大作戦

- 日時：2017年6月17日(土) 8:45～12:00
- 主催：隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会
- 場所：隅田川テラス (東京都内)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2755.html>

■ 第10回いい川・いい川づくりワークショップ

- 日時：2017年9月9日(土)～10日(日)
- 主催：いい川・いい川づくり実行委員会
- 場所：福岡大学 (福岡県 福岡市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2584.html>

■ 応用生態工学会第21回大会/ELR2017名古屋

- 日時：2017年9月22日(金)～25日(月)
- 主催：応用生態工学会
- 場所：名古屋大学(愛知県名古屋市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2588.html>

■ 第17回川に学ぶ体験活動全国大会 in 北九州

- 日時：2017年10月14日(土)～15日(日)
- 主催：川に学ぶ体験活動協議会
- 場所：北九州市芸術劇場ほか (福岡県北九州市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2586.html>

■ 皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。

書籍等の紹介 *Publications*

■ 水辺の小さな自然再生～あなたもはじめてみませんか？ (2017.3 発行)

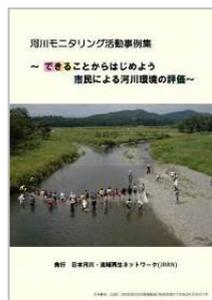
- ・発行：「小さな自然再生」研究会/日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・発行年月：2017年3月
- ・ページ数：16ページ



水辺でできる小さな自然再生の更なる普及促進を目的に、小さな自然再生の概要や取組む際の留意点、また「小さな自然再生」研究会による普及促進活動を紹介した簡易冊子です。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう 市民による河川環境の評価～ (2014.3 発行)

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授 (JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■ 上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>
JRRN事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

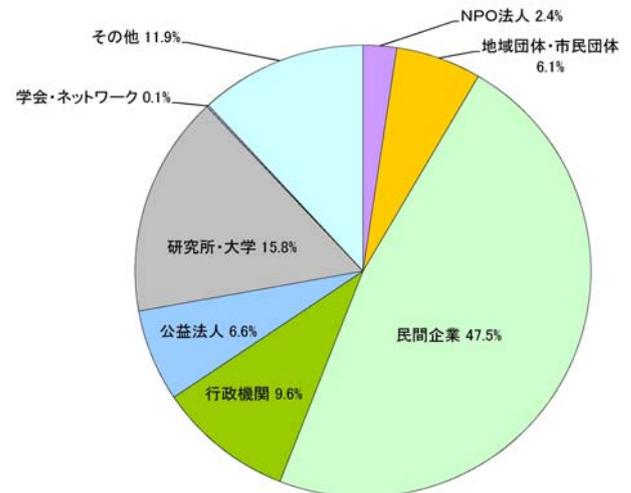
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週1回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2017年5月31日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数：758名、団体会員数：60団体)

※5月の新規入会数：個人会員3、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財)リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

